

2026年上半期 OpenAI・ChatGPT バージョンアップ & 新機能 総まとめ

2026年上半期(1月～6月)、OpenAIおよびChatGPTは、基盤AIモデルの大幅進化から、実務での自動化・分析を行うエージェント機能の強化、低価格プランの世界的展開まで、数多くの大型アップデートを実施しました。本ドキュメントでは、この6ヶ月間の主要な変更点や新サービスを月ごとに分かりやすく解説します。

1. 1月: サービス拡大と推論インフラの基盤強化

低価格プラン「ChatGPT Go」のグローバル展開

新設定された低価格プラン「ChatGPT Go」(月額8ドル)が世界中で利用可能となりました。あわせて、無料版(Free)およびGoプランのユーザーを対象とした広告掲載テストの方針が発表されました。なお、有料の上位プラン(Plus、Pro、Business、Enterprise)では一切広告が表示されず、従来通り快適に利用できます。

Cerebrasとの提携による推論基盤の強化

Cerebrasとの提携により、超低遅延なAI計算資源(750MW規模)をOpenAIのプラットフォームに統合しました。これにより、複雑なAIエージェントの動作やChatGPTにおけるリアルタイムなやり取りの応答速度が飛躍的に向上しました。

2. 2月: リサーチ機能の高度化と広告テストの導入

「Deep Research」のメジャーアップデート(GPT-5.2系への移行)

高度な情報収集・レポート作成を行う「Deep Research」の基盤モデルがGPT-5.2系へ更新されました。主なアップデート内容は以下の通りです。

- **ドメイン指定検索**: 調査時に特定のドメインや信頼できるWebサイトを指定可能に。
- **MCP(Model Context Protocol)連携**: 社内データベースや各種ツールとのシームレスなデータ連携を実現。
- **リアルタイム進捗追跡と途中介入**: リサーチの進行状況をリアルタイムで確認し、途中で追加指示や方向修正を出すことが可能。
- **全文ビューアとダウンロード**: 収集・生成されたレポートを全文ビューアで確認し、各種フォーマットでダウンロード可能に。

米国でのChatGPT広告テスト運用開始

FreeおよびGoプランのユーザーを対象に、回答の公平性やプライバシー保護を前提とした広告表示のテストが米

国にてスタートしました。

3. 4月: 最高峰モデル「GPT-5.5 Thinking / Pro」の登場

フラッグシップモデル「GPT-5.5 Thinking / Pro」

プロフェッショナルな実務作業向けに開発された高度なフロンティアモデル「GPT-5.5 Thinking / Pro」がリリースされました。複雑な論理的思考(思考プロセス)を挟むことで、以下の領域で過去最高レベルの精度を達成しています。

- 高度なコーディング・システム開発の自動化
- 専門的な学術・市場リサーチおよびデータ分析
- 高精度なドキュメント作成およびスプレッドシートの構造化
- PC画面の閲覧・操作を伴う自律型エージェント機能の強化

4. 5月: ChatGPTの基本機能刷新とマルチメディア強化

標準モデルの刷新「GPT-5.5 Instant」

ChatGPTのデフォルトモデルが「GPT-5.5 Instant」へとアップデートされました。日常的な使い勝手やレスポンス品質が大幅に高められています。

- ハルシネーションの削減: 事実誤認(誤った回答)が前モデル比で52.5%削減されました。
- 回答の簡潔化: 回答文体が約30%コンパクトになり、要点を素早く把握しやすくなりました。
- パーソナライゼーションの深化: ユーザーのメモリ設定や過去のファイル、参照データを組み合わせたパーソナライズが進化。参照元を明確に示す「Memory Sources」表示機能も追加されました。

次世代音声モデル「GPT-Realtime-2」および関連モデル

人間同士のような自然でリアルタイムな会話を実現する3つの新モデルが一挙に公開されました。

- **GPT-Realtime-2**: 会話の途中で自然に割り込み(割り込み発話)ができるリアルタイム音声モデル。
- **GPT-Realtime-Translate**: 70以上の言語に対応し、双方向で自然な通訳を行うライブ翻訳モデル。
- **GPT-Realtime-Whisper**: 高精度で遅延のない逐次文字起こしモデル。

「ChatGPT Images 2.0」

思考プロセスを取り入れた画像生成・編集機能「ChatGPT Images 2.0」が提供開始され、直感的な画像作成・一部修正がより高精度かつスムーズに行えるようになりました。

5. 6月: デスクトップ・作業環境へのエージェント統合

「Codex Desktop」および「Workspace Agents」の強化

PCのデスクトップ環境、ブラウザ（Chrome拡張）、モバイルアプリの各デバイス間での連携が大幅に強化されました。ローカルファイルやスプレッドシート、Webツールをまたいだ作業の自動化・エージェント連携が一段と実用的になりました。

まとめ: 2026年上半期の振り返り一覧

時期	カテゴリー	主なアップデート項目
1月	プラン・インフラ	ChatGPT Goグローバル展開、Cerebras提携による推論高速化
2月	リサーチ・広告	Deep Research（GPT-5.2系）強化、米国での広告テスト開始
4月	最高峰モデル	GPT-5.5 Thinking / Pro リリース（高度分析・エージェント）
5月	日常モデル・音声・画像	GPT-5.5 Instant（標準モデル化）、GPT-Realtime-2、Images 2.0
6月	エージェント統合	Codex Desktop / Workspace Agents 強化